

## 職場紹介： (株)水野工学研究所

代表取締役社長 渡 義治

### 1. はじめに

当社は、平成5年3月に設立した新しい会社です。

最初の設立主旨では、建設に関係する技術的な諸問題を工学的な立場から解決し、地域社会に貢献することを目指していました。このために必要な研究設備を広島大学のすぐ近くに建設する予定で、土地の手配まで行ったのですが、バブルの崩壊が、こんなところにも押し寄せて設備投資を断念せざるを得なくなりました。研究設備への多額の投資によって経営を圧迫される状況が予測される社会情勢に次第に移行しつつある兆候が見えたからです。

そこで、水野工学研究所は、設立初期の経営基盤を安定させるために、土質と港湾を主体にしたコンサルタント業を中心にし、工法や材料開発の研究開発部門を縮小して発足することになりました。最初の計画とは、コンサルタント業務と研究開発業務の比率が丁度逆転したことになります。

ジオテキスタイルに関連する事項は、事業の一部で扱っているのみで特別な話題はありませんが、職場は家族的な雰囲気の中であって、従業員の幸せを増進することによって個人の生き甲斐と労働意欲を引き出し、社会に貢献することを目標に頑張っています。

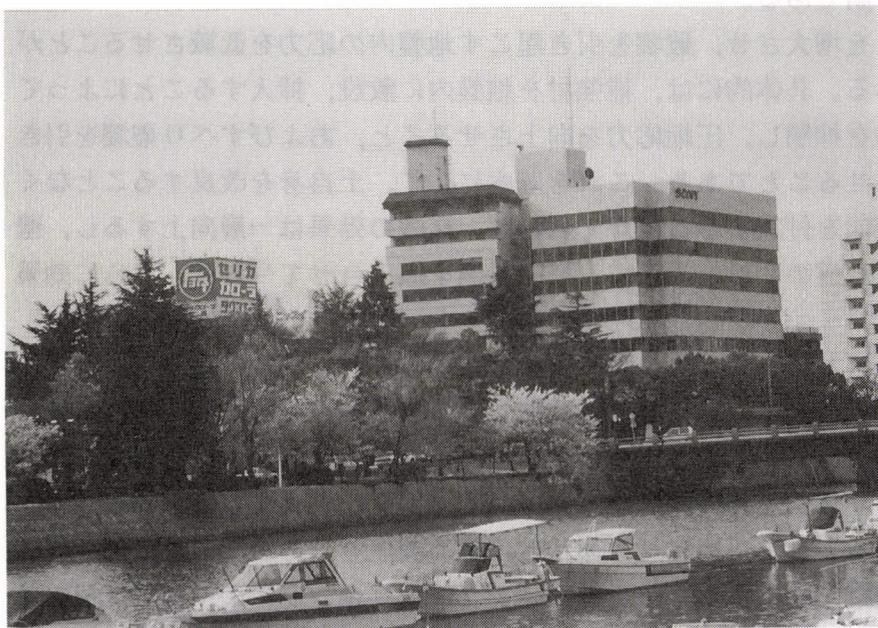
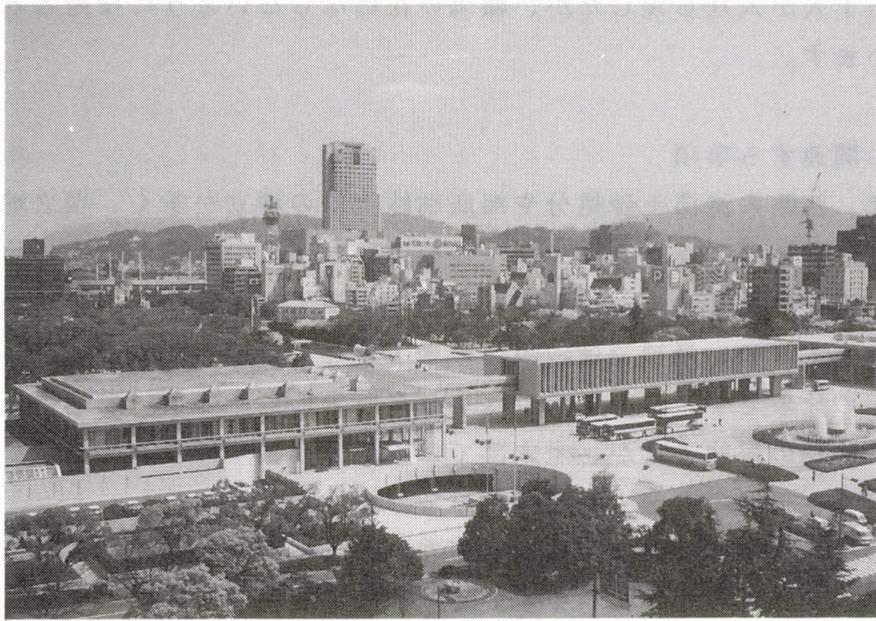


写真-1 水野工学研究所のあるビル

広島を中心を流れる大田川の川辺に位置し、平和公園の国際会議場の正面にあります。



国際会議場と原爆資料館の先に原爆慰霊塔や広島市の中心街のビル群が見えます。

写真-2 ビルの屋上から眺めた平和公園と広島市の中心街

## 2. 会社組織・従業員構成

会社組織は、技術計画・設計・積算を担当する技術部と工事施工計画・施工管理を行う土木部および新技術開発の技術開発部を主体にして、これに総務部・営業部で構成されています。

現在の総勢は15名で、広島平和資料館のすぐ前の100m幅の平和大通りに面した環境の良い場所に事務所を構えています。事務所の窓の外には、平和大通りの樹木から伸びた枝葉が鬱蒼と茂り、仕事で疲れた目を休ませてくれます。また、ビルの屋上からは、平和公園と広島市の中心街が一望出来、毎年平和大通りで開催される広島フラワー・フェスティバルのパレードの終点はこの窓の直下です。今年も60万人の人出がありゴールデン・ウィークの人出としては全国で第3位と報じられていました。

## 3. 業務内容

設計陣の大半は、実際の建設現場で設計を担当していた技術者で構成し、机上の設計に終わらないような現場に直結する設計システムを組み、これを当社の技術と位置づけました。たとえば、当社で設計したものは、現場で施工するのに改めて施工計画を立てる必要が無いように、綿密な施工検討をして予算見積りをしています。このことは、施主の立場からは工事の進行にともなう設計変更を必要としないので大変重宝なことです。このために需要に応じる技術陣は大変に多忙で、業務消化のために人出不足が生じています。

専門の技術者を育てるには、長い年月を必要としますので、補助技術者として女性技術

者の採用を積極的に考えています。採用条件は、1に健康、2に健康、3に美人としています。この4月に早くも1人が入社しましたが、職場の花にならないように技術者としてみっちり教育をしています。

#### 4. ジオテキスタイルに関連する事項

瀬戸内海地区の埋立は、航路の浚渫土砂処分や海底粘性土での埋立が多く、埋立地に超軟弱地盤を形成することが多いのでジオテキスタイルを用いた覆土の計画が盛んに行われています。この工法は、机上で設計するだけでなく、現場の施工方法によって成功か否かがはっきりと分かれていますので、当社では、現場の施工管理を含めた仕事を請負っています。こちらは、工事部の仕事です。覆土工法では均一な厚さの砂を如何に効率良く散布するかと云うことが工事成功の秘訣ですが、土木部では工事の規模や砂の運搬経路などを検討して施工計画を立案し、現場の管理や指導を行っています。

かつては、豊富な砂の量を誇っていた瀬戸内海も現在では砂材の枯渇が懸念されて数年先には砂材の利用は困難になると云われています。そこで砂の代替としてジオテキスタイルの活躍する場があるのではないかと云うのが私達の主張です。これから3～5年先の工事では、このことを真剣に考慮しながら工事計画を立案しています。このような場所でのジオテキスタイルの活躍はサンドマットやサンド・ドレーンの代替でしょう。しかし、ただ置き換えると云う単純なものではありません。ここに技術開発部の活躍する場があります。現状から近未来を見つめて、その時代に必要な工法や材料を的確に開発することが、この部に課せられた課題です。

#### 5. おわりに

どの時代にも、会社の進歩は決して停滞してはいけないと云うのが当社の信念です。社会が進歩しているのにその場に留まると云うことは相対的には後退を意味するからです。社会の進歩に合わせて歩いていてやっと現状維持なのです。しかし、建設工事では、経験が重要視されます。そこで施工管理では実績を重視する現状に立脚し、設計では実績に基づいた枠を幾らかはみ出す努力をし、開発では、さらに先を見つめて行動することを心がけています。誕生して間もない会社ですが、諸兄のご指導とご支援をよろしくお願い致します。